



医局紹介、入局案内

～入局を希望される方へ～

教授からのメッセージ

教室の教育方針

教室員の構成

学会発表・海外留学について

女性医師の皆さんへ

レジデントの声

新入局員募集について

獨協医科大学越谷病院 糖尿病内分泌・血液内科

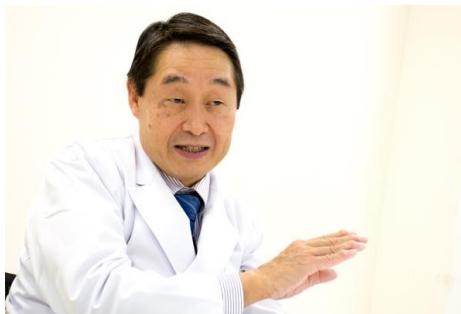
〒343-8555
埼玉県越谷市南越谷2-1-50

電話 048-965-1111(代表)
E-mail touketsu@dokkyomed.ac.jp

入局を希望される方へ -教授からのメッセージ-

獨協医科大学越谷病院 糖尿病内分泌・血液内科

主任教授 犬飼 敏彦



私は、平成13年より、初代の竹村喜弘教授の後任として当科を主宰しております。平成17年からは専門性を明確にするために「一般内科」より「内分泌代謝・血液・神経内科」と呼称を変更し、更に平成23年6月からは糖尿病内分泌・血液内科となり現在に至っております。医局員は現在、レジデントの先生を含め、20名程度の構成となっております。

実際の診療に当たっては「内分泌代謝」領域では糖尿病を主軸に、脂質異常症、高血圧症、甲状腺疾患、下垂体・副腎疾患、「血液」領域では白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髓腫、骨髓異形成症候群、種々の貧血等の患者様を担当しています。これらの豊富な症例を背景に多くの臨床経験を積んでもらっています。また、取得可能なライセンスとして、内科認定医、総合内科専門医を始め、糖尿病専門医、内分泌専門医、甲状腺専門医、血液内科専門医等の資格を取得し得る環境を整えております。また、優秀な指導医陣の下、学位取得も十分可能です。

当科のキャッチフレーズは「明るくアカデミックに、、、」であり、この二つの要素は、医局員のモチベーションを高めるものと確信しています。

当科の理念として、大学に要求される「診療」「教育」「研究」(欧米国際学会にも積極的に発表)の充実に加え、「病病連携・病診連携」を推進した形で地域の臨床の先生方との活発な交流を重視しております。大学病院とは云え、かつて云われていた「象牙の塔」ではなく開かれた大学病院を目指しております。また、これは持論となりますが、臨床医の理想像は世界遺産にも登録された日本一の山、「富士山」のスタイルかと思います。すなわち、裾野の広さは「臨床医としての幅の広さ」、日本一の高さは「専門性の深さ」、更に山の容姿の美しさは「温かい人間性、バランス感覚の良さ」を象徴しています。医局員には少しでも“Dr. Mt.Fuji”を目指してもらいたいと思っております。

当科は、明るく気さくな医師が多く、特に家庭的な雰囲気を醸し出しております。当科にご興味のある方は是非いつでもお立ち寄り下さい。

教室の教育方針

当教室の魅力は、内分泌代謝学と血液学の両分野を学べ、今後の内科医に求められる高い総合診断能力を習得できるところにあります。



糖尿病内分泌、血液内科はそれぞれ生活習慣病、腫瘍を診療する診療科です。生活習慣病や動脈硬化、悪性腫瘍は日本人の死亡原因の3分の2以上を占めており、私たちは日本人が抱える健康上の問題に両分野からアプローチしていることになります。どちらも多様な病態に基づく疾患を取り扱い、全身を診る領域です。

私たちの教室では内分泌代謝内科および血液内科領域の疾患に関して、教室員一同、学生、研修医への教育に熱意をもってあたっています。また、血液内科、肥満、糖尿病などを中心に臨床研究、基礎研究を積極的に進めています。



● 獨協医科大学越谷病院 糖尿病内分泌・血液内科教室の特徴

- ✓ 内分泌代謝、糖尿病、肥満、甲状腺、血液、がんといった**様々な専門領域の専門医、指導医資格をもつ教官**から教育を受けることができます。
- ✓ 多彩な症例を数多く経験することができ、短期間で臨床能力の向上を図ることができます。
- ✓ 臨床研究・基礎研究も活発に行っており、研究に興味がある方も充分満足できます。
- ✓ 学会での演者の場合、レジデント(後期研修医)でも学会出張旅費等は全額支給されます。
- ✓ 日本血液学会、日本糖尿病学会の若手医師を対象とした研修会、勉強会への参加費用、旅費も支給されます。
- ✓ 大学の規定により1週間程度の夏季休暇をとることができます。

■ 糖尿病内分泌領域



糖尿病、肥満、内分泌疾患、脂質異常症、動脈硬化症を扱い、疾病の発症から生涯にわたり患者さんのケアを行います。

糖尿病領域では特に専門性を要求されるCGMを用いたうえでのインスリンポンプの導入等も積極的に実施しています。糖尿病療養指導士を中心とする医療従事者と連携しチーム医療を行っています。当科は運動療法指導にも力をいれており、その特徴として、当院リハビリセンター所属の理学療法士の協力に加え、株式会社東武スポーツとのコラボレーションが挙げられます。入院患者さんへの集団指導や外来患者さんを対象としたフィットネスクラブでの運動教室等を実施しており、具体的な運動療法について学習することができます。

糖尿病患者会「ひまわりの会」では患者さんとの交流、情報交換を行っています。

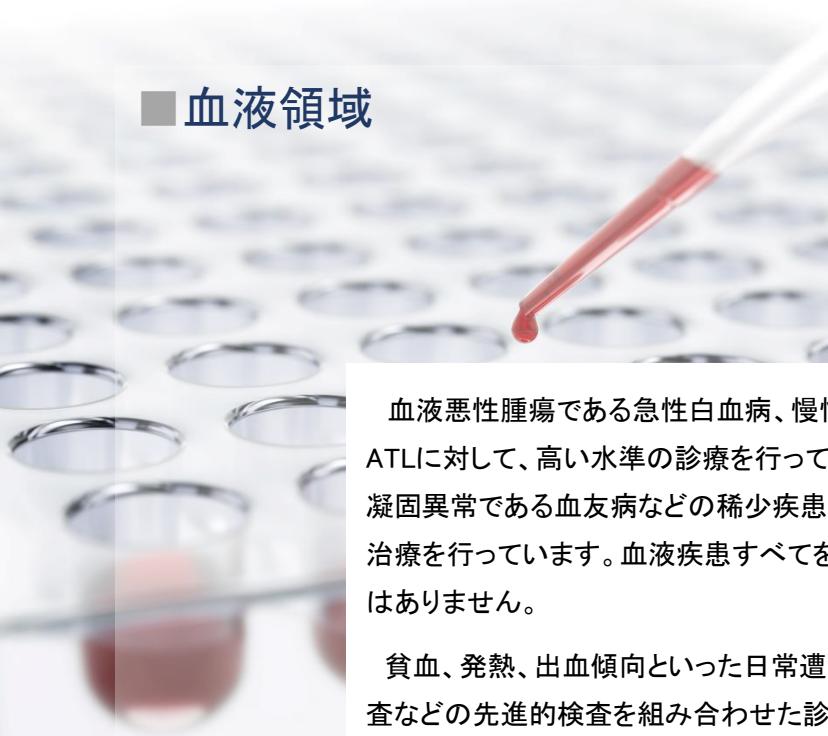
内分泌疾患は、甲状腺、副甲状腺、副腎、視床下部・下垂体、性腺などの広範な疾患の診療を行っておりますので、豊富な診断と治療経験を積むことができます。



研究内容

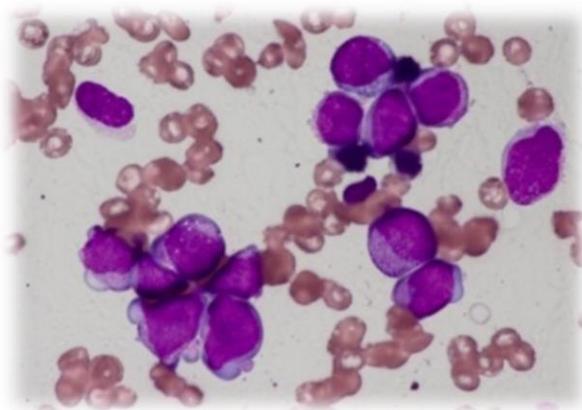
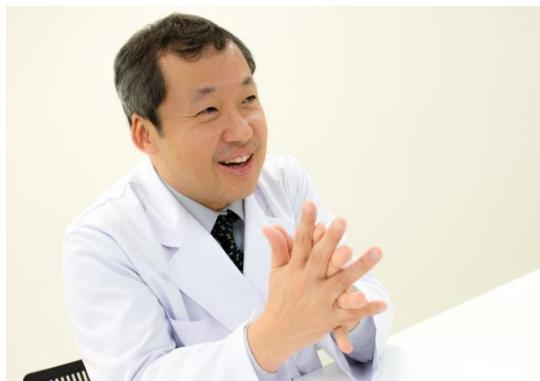
1. 甲状腺ホルモン動態とリンパ球機能の変動に関する臨床研究
2. 持続血糖モニター装置(CGMS)を用いた糖尿病患者の最適治療に関する臨床研究
3. インスリン抵抗性と糖尿病の病態に関する基礎及び臨床研究
4. 各種サイトカイン及び酸化ストレスと糖尿病合併症に関する臨床研究

■ 血液領域



血液悪性腫瘍である急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髓腫やATLに対して、高い水準の診療を行っています。造血障害である再生不良性貧血や凝固異常である血友病などの稀少疾患といった幅広く様々な血液疾患に対する診療、治療を行っています。血液疾患すべてを学ぶ機会に恵まれた環境と言っても過言ではありません。

貧血、発熱、出血傾向といった日常遭遇する臨床症状と表面マーカーや遺伝子検査などの先進的検査を組み合わせた診断技術、抗がん剤や分子標的薬を用いた最新治療法、感染症に対する知識と治療、DICの診断と治療などを学ぶことができます。



研究内容

1. 白血病の各種遺伝子解析
2. 多発性骨髓腫におけるレチノイドの抗腫瘍効果に関する基礎的研究
3. 免疫不全動物を用いた悪性リンパ腫のin vivoモデルの確立
4. 慢性骨髓性白血病のTKI治療時における合併症及び予後に関する臨床研究

取得できる専門医資格

各学会の研修施設等に認定されており、専門医取得についての指導体制も整っています。

- ✓ 日本内科学会認定医・総合内科専門医
- ✓ 日本糖尿病学会専門医
- ✓ 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医
- ✓ 日本甲状腺学会甲状腺専門医
- ✓ 日本肥満学会肥満専門医
- ✓ 日本血液学会専門医
- ✓ 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
- ✓ 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

教室員の構成-



役職	氏名	専門領域
主任教授	犬飼 敏彦	内分泌・代謝疾患
腫瘍センター長	森田 公夫	血液疾患
准教授	竹林 晃三	内分泌・代謝疾患
准教授	岡村 隆光	血液疾患
准教授	土屋 天文	内分泌・代謝疾患
講師	原 健二	内分泌・代謝疾患
講師	成瀬 里香	内分泌・代謝疾患
非常勤講師	末次 麻里子	内分泌・代謝疾患
非常勤講師	山根 有人	血液疾患
助教	渡邊 杏子	内分泌・代謝疾患
助教	鈴木 達彦	内分泌・代謝疾患
助教	藤田 実佳	内分泌・代謝疾患
助教	篠崎 浩之	内科
助教	山内 元貴	内科
助教	中村 枝美子	内科
レジデント	氏家 淳	
レジデント	奥村 武憲	
レジデント	古川 翔	
レジデント	久保 未央	

平成29年9月現在

学会、海外留学について

糖尿病内分泌・血液内科では、基礎研究および臨床研究にも積極的に取り組み、特に臨床研究では非常に優れた研究成果を挙げ、世界的に評価の高い英文誌や主要な国内外の学会で多数発表しています。

研究面でも指導体制が整っていますので、臨床経験を積みながら研究を行い、医学博士(学位)を取得することも可能です。現在、テキサス大学サンアントニオ校に留学している医師もあり、医局に在籍したまま海外での研究を行うことも可能です。

毎年、下記の学会や研究会で発表しています。

日本内科学会

日本内分泌学会年次学術総会

日本糖尿病学会年次学術集会

ADA(米国糖尿病学会)

日本血液学会年次学術集会

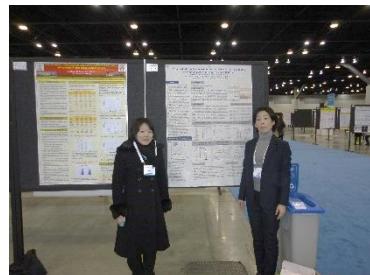
日本肥満学会年次学術集会

日本糖尿病合併症学会

EASD(欧州糖尿病学会)

ASH(米国血液学会議)

IDF(国際糖尿病連合世界会議)



海外留学

平成28年度より、糖尿病・インスリン抵抗性の研究で有名なDeFronzo 先生の研究室に医局員1名を派遣しています。ADA(米国糖尿病学会)開催時には、DeFronzo 先生、研究室スタッフとミーティングを持ち、教室間の交流を深めています。

The University of Texas Health Science Center at San Antonio
Ralph A. DeFronzo
<https://www.uthscsa.edu/>

女性医師の皆さんへ

獨協医科大学越谷病院では妊娠・出産・育児などの家庭的な事情にも配慮した勤務システムを採用しています。当科は女性の医局員も多く、働きやすい環境です。育児短時間勤務制度を上手に利用しながら専門医資格を取得した先輩医師もいます。そんな先輩の経験をご紹介します。



平成20年入局(糖尿病専門医、入局9年目)

私は平成23年に第1子を出産し、育児休暇を頂いた後外来診療を中心に少しずつ復帰をしておりましたが、平成24年より短時間勤務制度を犬飼教授から勧めて頂き、利用することができました。

当初、大学での継続勤務にとても不安を感じていましたが、この制度を利用することで外来診療を中心に復帰することができました。平成25年には糖尿病専門医を取得し、子供との時間を大切にしつつ自分自身のスキルアップを目指すことができ、病院や医局の皆さんには大変感謝しております。

レジデントの声

入局したレジデントから
皆さんへ



卒業大学:金沢医科大学 平成26年卒

私は初期研修医の時代に将来の科として糖尿病内分泌内科と血液内科で迷っておりました。偶然その二つの科が合わさっているこの科に興味を持ち、レジデントとして入局させて頂くこととなりました。

入局してからも糖尿病を始めとする予防が大事である生活習慣病から急性疾患である血液内科の腫瘍、感染症まで幅広い内科疾患を勉強でき飽きることがないです。大学病院であり珍しい症例を経験できる一方、市中病院のようなcommon diseaseも経験することができます。先輩医師の方々も優しい方ばかりで、疑問点などもすぐに質問しやすい雰囲気があります。幅広い知識を持つ医師を目指せると思います。一緒に働くことを祈っています。

レジデントの声

入局したレジデントから
皆さんへ



卒業大学:東京医科大学 平成26年卒

私は初期研修を埼玉県内の民間病院で研修しましたが、元々糖尿病・代謝内分泌領域に興味があり、初期研修で様々な疾患を経験し、common diseaseの初療中心に勉強させて頂きました。3年目以降自身の将来を見据えた時に、大学病院での高度な医療を学びたいと感じ、まずは自身の興味のあった糖尿病・内分泌領域で就職先を探していました。

病院見学する中で、当科の特徴である糖尿病・内分泌領域と血液内科が併設されている点に魅力を感じました。元々血液内科は私自身苦手意識を持っていましたが、初期研修で感染症の加療にも興味を持ち、採血データの読み方や知識に関しても躊躇することが多かったため、興味のある分野以外にも、抗癌剤を使用する血液領域、また併せて抗癌剤治療後に起きる感染症も経験できることは私にとっては目から鱗でした。入局して1年が経ち、まだまだ分からぬ事がたくさんありますが、優しい先輩方のおかげで未経験でも心配なく勉強させて頂いてます。当科は本当に雰囲気が良く、アットホームであり、何ら関連の無い病院から就職した私でも温かく迎えて頂きました。

後輩の先生方と一緒に仕事をできる日を心より願ってやみません。

卒業大学・獨協医科大学 平成26年卒

高校生だった私は「人々の健康を保つ仕事をしたい」と願い、漠然と産業医の仕事に興味を持ち医者を志しました。しかし実際に医学の勉強を進めるにつれ、専門性を持って病気を治す医師を志すようになりました。当初私はマイナー外科を志望し、研修医となりました。ところが実際に働いてみると、どの科も学生の時と印象が異なり、実際に自分のやりたかった事を見つめ直す様になりました。そこで症状のないうちから治療介入する事に重きを置く、糖尿病内科を選びました。当科は糖尿病内分泌・血液内科であり、病棟でその全ての領域の診療に携わります。血液内科領域は学生の時学問として興味がありましたが、自分の予防医学としてやりたい事とは反していたため仕事にすることはないだろうと思っていました。実際に臨床で関わると、全身管理を学べる分野であり、特に感染症との闘いが必須であり、一般内科医として必要なスキルが鍛えられており、症例が豊富な場で血液の勉強ができる事を有り難く思います。また糖尿病も血液も薬の進歩が目覚ましい分野であり実臨床でその効果を実感できる楽しみもあります。内科を志すみなさんが是非私たちの科に興味を抱いてくださいますように。見学などお待ちしております。

医局の年間スケジュール

4月	歓迎会、日本内科学会、日本内分泌学会 DOG Masters Cup(医局ゴルフコンペ) 歩こう会(糖尿病患者会)
5月	日本糖尿病学会
6月	ADA(米国糖尿病学会)
7月	納涼会、日本血液学会関東甲信越地方会 研修医(初期・後期)のための血液学セミナー
8月	
9月	EASD(欧州糖尿病学会)
10月	日本血液学会、日本肥満学会、日本糖尿病合併症学会 埼玉県糖尿病ウォークラリー
11月	医局旅行
12月	忘年会、ASH(米国血液学会)、 IDF(国際糖尿病連合世界会議)、納会
1月	日本病態栄養学会、日本糖尿病学会関東甲信越地方会
2月	糖尿病学の進歩
3月	



新入局員募集について



入局をご希望される方は、下記の医局長までご連絡下さい。

書類選考後に面接を実施します。

また医局の見学、質問等も隨時受け付けております。

お気軽に下記まで

お問い合わせください。

連絡先：

〒343-8555

埼玉県越谷市南越谷2-1-50

獨協医科大学越谷病院

医局長

原 健二(はら けんじ)

電話:048-965-1111

E-mail:touketsu@dokkyomed.ac.jp

メールが届かないこともあるようですので、返信が1週間以上ない場合には、お手数ですがお電話下さい。

中途入局も隨時募集しております。ご希望の方は医局長原までご連絡ください。

医局紹介、入局案内～入局を希望される方へ～

2017年9月発行 第2版

発 行 獨協医科大学越谷病院糖尿病内分泌・血液内科

編集責任者 原 健二

製 作 医局紹介、入局案内～入局を希望される方へ～製作委員会